



クト・エル・アマラ

先月末にイギリスのタウンゼント少将は、他の3人の将官、500人以上の将校と約9,000人の兵士（この中の3分の一は白人のイギリス人）とともにトルコに降伏した。

前年10月に試みたバグダッドへの進攻でトルコ軍に敗れ、後退を余儀なくされていた。自軍の大部分とともに、バグダッドの南東160km、ペルシア湾方向のチグリス川沿いにあるクテルアマラに立てこもった。チグリス下流から援軍が来るまで、ここで耐えきれると思ったのである。イギリス軍はこのための試みを繰り返し、援軍に向けた部隊の司令官をつぎつぎに交代させていった。そのどれもが、同じ場面の繰り返しであった。クト方面に向けて進攻を試み、対峙するトルコ軍部隊に対する勝利を告げるが、チグリス川の「氾濫」によって元の陣地、あるいはペルシア湾岸までの退却を余儀なくされた。実際のところは、トルコ側からの報告から分かるよ

うに、毎回イギリス側の援軍の厳しい敗北に終わっていたのである。このことをイギリス人は、退却の都度援軍司令官の交代をおこなうことで、間接的に、またおそらくいやいやながら認めていたのである。

タウンゼント司令官は143日間クトにとどまった。つまり143日分の備蓄があったのである。彼はクトへの籠城以降、戦闘に出ていないようである。トルコ側はどうやら最初から籠城軍の兵糧攻めを狙っていたようで、実際そうだったわけである。

トルコ側のこの勝利は、軍事面よりも士気面での成功として高く評価すべきであろう。日本の新聞ではすでに、イギリスに対するトルコのこの勝利がペルシア、インド、エジプトのイスラム教徒のイギリスに対する敵意をさらに煽るのではないかとの懸念が述べられていた。

軍事面でもこの勝利を過小評価する必要はない。トルコは今やメソポタミアにいる全兵力でイギリス側の援軍を叩いて、チグリス・ユーフラテス平野全体からペルシア湾に至るまで侵入者たちを完全に追い払うことができる。あるいは必要とあれば、この戦場から軍隊を北方に振り向けてロシア軍に打撃を与えることができる。あるいはさらに第3の可能性としては、最近のニュースによるとペルシアのアルディラン地方に駐留しているというロシア軍を迎え撃つために、ペルシアへの進攻も考えておく必要がある。トルコ軍がこれから先どう対処していくのか、関心を持って眺めていたい。

収容所展望

五月になった。そうとは知らなかった者も、大広間に移された日曜日の庭園コンサートを聞いて、実感することができた。自然界はドイツよりもずいぶん先をすすみ、暖かい気候とたっぷりの雨で植物の生長が非常に進んでいる。今は、ツツジとフジの花の季節である。週に何度か、運動場に通うたびに途中通過する公園では、ツツジがピンクと白の花を咲かせてい

る。池のそばの藤棚は、青っぱい花と白い花の房で無数の昆虫をご馳走に誘っている。横の一番大きな木に巻き付いているフジもあって、その木から花がふさふさと下がっている。春の長雨の季節は終わったようで、たまった雨水はたっぷりあり、蚊と蛙にとってはおあつらえ向きとなっている。毎夜近くの田んぼから、この四つ足の歌手たちの単調な合唱が聞こえてきて、まるで寝ているわれわれを打ち負かそうとしているみたいだ。

小包と新聞がアメリカ経由で新たにどっさりと届いたが、手紙の方はぼつぼつとしか来ない。しかし、これにはだんだん慣れてきた。手紙は確かにわれわれの確信を維持するのに重要な要因であったが、他の国々でわれわれと運命を同じうしている同胞たちがわれわれ以上に大変な目に会っていることを考えると、手紙が来ないことも何とか慰められるのである。

新任の山口旅団長が、火曜日に収容所を視察に訪れた。短い演説を行い、俘虜としての期間を全員が我慢強く耐えるように訓示した。

酒保では、はじめは群れをなしていた商人たちが今やたったひとりになった。開店しているのは数時間であるが、売り上げが少ないのでひとりで十分なのだ。入ってくる義援金はますます少なくなり、肉屋の売り行きが増大するにつれ、酒保にはかなりの損害となっている。

体操協会は、もうひとつ器具を導入した。これはきわめて単純な材料を使い収容所内で組み立てられたものであって、少し古風な印象を与えるものだが、まごうかたなき鞍馬である。体操の時間は気温が高くなってきたことを考慮して、1時間早く設定されている。

鳥の飼育は相変わらず盛んで、いたるところで鳥が動き回り、ピーピー鳴いている。ただ、カラスの子だけはネズミの餌食になって、早死にしてしまった。

故国から新聞がたくさん収容所に届くようになった結果、『トクシマ・アンツァイガー』の主要な役割である故国の新聞記事の中から特に興味深いものを再録するという役目が奪われてしまった。再録した記事は読者にとって、たいていどこか別のところで読んだものになっている。そこで編

集部は、故国の新聞記事の再録を止めることに決定した。これによって紙面に掲載する内容が減少することになる。この減少に見合うようにするため、本紙を今後2週毎の発行とすることになった。残念ながら、これが収容所からの解放に伴う刊行の停止に到る経過であると期待するのは時期尚早である。

第8回演劇の夕べ

徳島 1916年5月14日

オットー・ルートヴィヒ

『世襲森林監督官』

5幕悲劇

登場人物

シュタイン	裕福な工場主で地主
ローベルト	その息子
クリスチャン・ウルリヒ	デュースターヴァルデ農園の森林監督官 「世襲森林監督官」とあだ名されている
ゾフィー	その妻
アンドレス	} 二人の子供
マリー	
ヴィルヘルム	
ヴィルケンス	大農場主、森林監督官の妻の叔父
ヴァルデンローデの司祭	
メラー	その秘書
狩人のゴットフリート	本のハンターとあだ名されている
ヴァイラー	ウルリヒの木材番

国境の酒屋のおやじ

フライ

リンデンシュミット

カトリーネ

バスチアン

運搬人2名

} 密猟者

シュタインの下僕

ドラマの舞台

第1幕 狩番小屋

第2幕 第1場シュタインの屋敷、第2場狩番小屋

第3幕 第1場国境の酒場、第2場秘密のアジト、

第3場シュタインの屋敷、

第4幕および第5幕 狩番小屋

開演 7時10分

上演時間 約3時間

上演日の午後、舞台でのリハーサルのために大広間を空けておくようお願いする。プログラムは当日までの夕方に販売する。

演劇部

チェス・コーナー

(駒の略語 K=キング、D=クイーン、L=ビショップ、
S=ナイト、T=ルーク、B=ポーン)

第109問の解答

1. Db6-b5 任意の手

2. Sd5 詰み

第110問の解答

1. Dh8-e8 Kf4-e5

2. De8-b5 任意の手

3. Db5-b8(b3) 詰み

第 110 問、その他の解答

- | | | | |
|------------|--------|-------------|--------|
| 1. | S を任意に | 1. | Kf4-g3 |
| 2. Dc8-L5 | 任意の手 | 2. De8-h5 | 任意に |
| 3. D で摘み | | 3. Dh5 x h2 | 詰み |

第 111 問

白：Kc8, Da6, Tg6, Lh7, Sc4, f3, Bd2, f6

黒：Kd5, Tf5, Sf4, Bc6, d3

2 手詰め

第 112 問

白：Kb1, Dg5, Lg4, h6, Sf2, h2, Bb3, b5, d3

黒：Kd4, Lc1, Sf4, Bb2, b4

3 手詰め

コルマー・フォン・デア・ゴルツ男爵

(華徳日報からの抜粋)

元帥フォン・デア・ゴルツ男爵は 4 月 19 日、発疹チフスで 10 日間病床にあったが、トルコ陸軍司令部において死去した。

フォン・デア・ゴルツ男爵は東プロイセン出身である。1843 年にラビアウ郡ビールケンフェルトで騎士領地主の息子として誕生し、1861 年に第 41 歩兵連隊に少尉として入隊した。後年、1913 年には皇帝在位記念にこの連隊長になっている。1864 年には軍事大学校に入学したが、オーストリアとの戦争のため中断された。フォン・デア・ゴルツ男爵はトラウテナウで負傷し、戦地からの帰還後軍事大学校での勉学に励んだ。25 歳になる前に大参謀本部勤務を命じられ、ここで 1869 年 9 月に中尉に昇進した。

1年後には再度、榮譽の戦場へとということとなった。フォン・デア・ゴルトツ男爵は参謀本部将校として第二軍の司令部に配属され、フリードリヒ・カール公の指揮下、普仏戦争の大部分を体験した。鉄十字榮譽勲章を胸にフォン・デア・ゴルトツ男爵はフランスから祖国に帰還し、1871年10月に参謀本部付きで大尉となった。そしてその3年後、第6師団の司令部に配置替えとなった。1878年6月参謀本部の委託により陸軍参謀部に異動、その年の10月には少佐となる。1883年には1885年10月1日までに申請すれば、プロイセン陸軍での勤務を再開できるという確約の下、暫定的にトルコ軍で勤務する許可が下された。ここで、世間一般に流布している間違いを指摘しておこう。フォン・デア・ゴルトツ男爵は「トルコ陸軍の再編成者」としてトルコに招聘されたのではなく、ケーラー将軍提案の「軍事学校の総監督官」だったのである。この職を男爵は1895年まで大いに楽しみながら全うした。軍事学校はフォン・デア・ゴルトツ男爵の在職中喜ばしいことに盛んとなり、生徒数が4,500人から14,000人にふくらんだのである。ケーラーの死後、参謀本部の副官の地位も与えられた。1896年1月2日には中将となって再びプロイセン陸軍に戻り、第5師団の指揮権を委ねられた。1898年には技術工兵部隊と要塞の総監査官の職務の遂行にあたった。ドイツ内陸要塞の改造は彼の指揮下で始まったものである。1900年には歩兵総司令官、1907年には第6軍監査部の総監査官となった。1年後大将となり、1911年には元帥の地位を与えられた。ゴルトツは第1軍団の指揮将官としても働いていて、1907年には黒鷲勲章、1911年には科学芸術勲功章を授与された。そして1908年以降、プロイセン貴族院議員となって議会活動もしていた。

フォン・デア・ゴルトツ男爵は単に卓越した軍事戦術家であるだけでなく、豊富な知識と能力から生み出された数多くの著作を通じて、またドイツ将校団の理論的な再教育にも後世に残る影響を与えた。近年は何度もスルタンからトルコへの招聘を受けていて、トルコ軍の再編成に助言を与えていた。1914年末、トルコが中欧諸国側についたとき、フォン・デア・ゴル

ツ男爵は再度コンスタンチノーブルへ招聘され、小アジアで行動する陸軍の総指揮を任された。その地で、死によって突然活動が絶たれ、業績豊かで多面的な生涯が閉じられたのである。

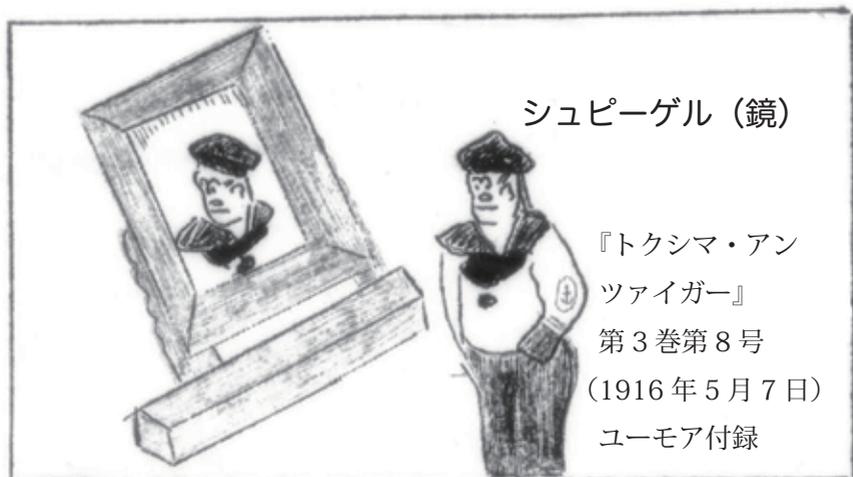
当紙に以下の通告の掲載依頼があった。

4月27日、酒保の営業に関する業者の総会が開かれました。その際に私には理解しがたく、また首肯できない意見が出されましたので、帳簿の締めが終わり次第、酒保支配人の職を降りる希望です。

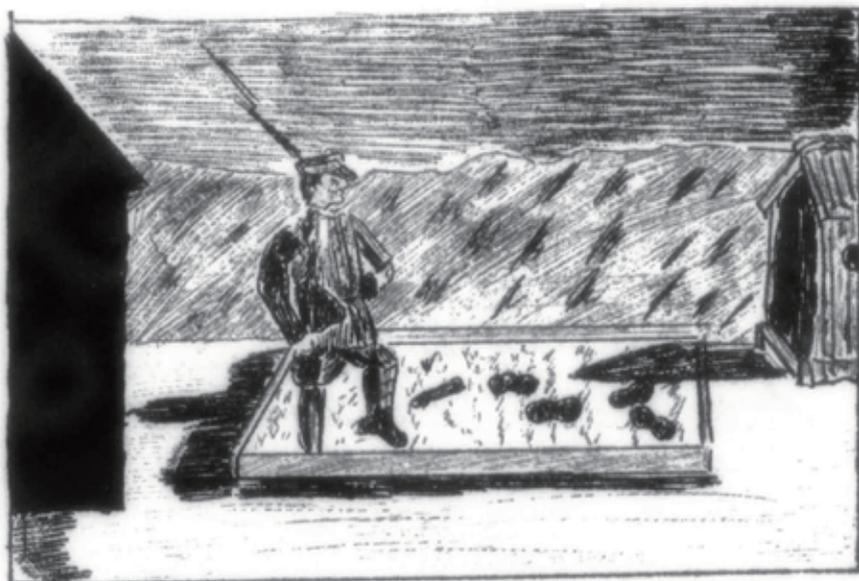
この理由から、申し訳ないのですが本日以降、ツケでの販売ができません。私への支払いが終わっていない皆様には、その金額を近日中にお届けする請求書に沿ってできるだけ早くお支払いをいただきますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

この機会をもちまして、これまでいただいたご厚情に厚く感謝を申し上げます。

頓首
K. S. ワタヤ



私の美しい庭を歩いて通る奴がいるのなら、
その庭は何の役に立つのだろうか。



犯人を求む

やったのは誰だ。しでかしたのは誰だ。

闇夜に広い道はずれて

通っていったやつは誰だ。

右にも左にも垣根があるのに

幅の広い板囲いがあったのに

奴には広場は広くなく、

大足で踏んで、植え付けたばかりの

花壇を行ったり、来たり。

苗をすっかり踏みつぶした。

犬どもが浅知恵で

読者を赤面させて申し訳ない、

糞でもってこの地を美化する、

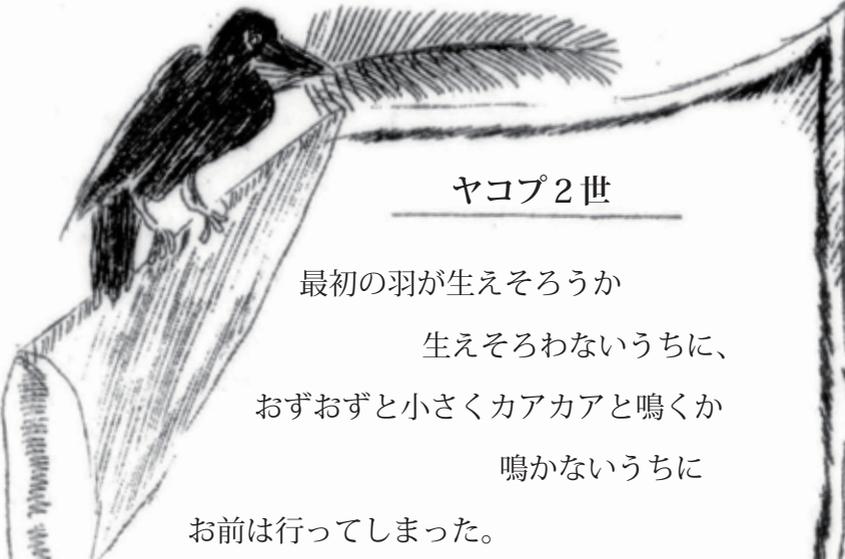
それだけでは足りないのか。

いい年をした人間が

花壇の中を歩くとは。

そやつは、いわば

人の分別がなくなった^{ざこ}雑魚だ。



ヤコブ2世

最初の羽が生えそろうか

生えそろわないうちに、
おずおずと小さくカアカアと鳴くか
鳴かないうちに

お前は行ってしまった。

私たちは取り残され、さびしい。

お前がこの世から去ったとは何とも恨めしい。

お前に授けられた命はほんの数日、

まだ生きる喜びも知らず、

この世での存在は短かったのに、

死神はお前の命の明かりを吹き消してしまった。



誤解

初年兵のローゼンタールは休暇中。だが帰営ラッパにあわてふためき、大佐にぶつかる。

大佐は名前を尋ねる。

は、ローゼンタール初年兵であります。

そうか、で、部隊のほうは？

まだまだ端役です、大佐殿。

庭の話題再掲

庭園は公共の保護に委ねることをお薦めします。

